



価値と感動を生み出す人に  
インタビュー

# マエストロの肖像 38

我々が日頃何となく「こうだ」と思っていることの中には、現実とは異なることも多い。  
こうした思い込みはなぜ生まれるのか。そして、どうすればそこから脱することができるのだろうか？

写真=佐藤兼永

社会の姿をデータで照らし出す  
統計分析のエキスパート

統計データ分析家  
アルファ社会科学株式会社 主席研究員

## 本川 裕

Yuruka Honkawa



「人間というのは『思い込む』存在。  
それは知性の反作用でもあります。  
そうした思い込みを取り除くために、  
データが示す現実を紹介していきたい。」

思い込みを排除することが  
有効な政策への第一歩

少年時代、本川氏の周りには多くの女性教師がいた。「先生には女性が多い。理由は日本の社会の特殊性にあるのではないか？」しかし本川少年のそんな考えは、統計によって簡単に打ち破られてしまう。OECDの報告書によると、日本の女性教師の比率はいわゆる先進国の中では最低(※1)。そもそも「先生には女性が多い」というところから誤っていたのだ。

「このように人間というのは『思い込む』存在なんです」と本川氏。「人間は知性を持つがゆえに、ものごとが筋道立っていないと納得できません。何かが起これば理由を考えないと不安なのであり、正しいか否かにかかわらず『こうだからだ』と思いつく。知性を有用に使っている反作用です」

しかし、思い込みで政策が決まるようなことになれば社会にとつては不幸。そして現実には、思い込みが現実と違うことは数多くある。本川氏が多様なデータを紹介し続けるのは、そうしたことを広く知らせなければという思いからだ。

※1 『社会実情データ図録』3852より。2011年のデータによると日本の女性教師比率は36か国中32位の低さ。以下、インドネシア、中国、トルコ、サウジアラビアと続く。 ※2 『社会実情データ図録』3277より。



本川氏が伝授してくれた統計の見方の一つが「増減」に注目するという視点。「調査方法に問題があっても『動き』には整合性があるもの。その意味で、同じ方法で調べ続けることは結構重要なんです」

### 統計を見る目を養うため 自ら調査を行ってみる

一方で、統計にはバイアス（偏

たとえば、「日本人は働きすぎだ」という問題。確かに統計を見ると、日本の労働時間は世界的に見ても長い。しかし一方で仕事による疲労度を見ると、こちらは世界で最も低い部類に入る（※2）。こうした事実を並べると、「日本人が過重労働を強いられている」というよりも、「日本人には根本的に疲れにくい人が多く、それに合わせた環境が作られているために一部の疲れやすい人がダウンしてしまふ」と考えたほうが妥当なのではないか？ そうだとすれば、「過重労働を強いる経営者にペナルティを課す」という政策では、問題は解決しないことになる。



1951年神奈川県生まれ。東京大学に在学中、図書館で統計書に出会い「こんなことまで調べられているのか」と感動したことからデータの専門家を目指す。財団法人国民経済研究協会常務理事研究部長を経て現職。

り）が生まれがちだ。典型的なのは、世論調査を行った新聞によって内閣支持率が異なるといった例。「朝日新聞の調査です」と名乗られれば、朝日が嫌いな人は答ええないし、産経新聞の調査ですといわれれば、産経を好きな人だけが答える。答える人が違うのだから結果も違って当然です。調査元の会社名が変わっただけで結果が変わることもあるんですよ」

現代人はこうしたことを知っているから、統計を警戒してもいる結果として、せっかくデータを示されても、自分の思い込みのほう为正しいと思ってしまうがちだ。では、こうした思い込みをなくするための統計リテラシーはどう養えばよいのだろうか？ 「一番いい方法は、自分でデータを集めて分析してみることにしないでしょう

か」と本川氏。自ら調査を行うことで調査の特性を知り、生まれがちなバイアスが分かれば、それを差し引いてデータを眺めることも可能になるのだ。

### 収集が難しい観光データは 調査方法がカギとなる？

「観光実態に関するデータを集めるのは難しい」と本川氏は言う。「楽しさ」のように意識を問う調査は設問の並び方でも答えが変わってしまふし、国勢調査などと違って住所地を捉えにくく、ダブルカウントの排除が難しいのも難点だ。そんな中で本川氏が評価している

のが、観光庁の『訪日外国人消費動向調査』。出国前に空港で飛行機を待つ外国人に聞き取り調査を行うという調査手法が特徴的だ。「訪日外国人はほとんどが航空機を利用するから必ず空港にいるし、そこで待つ人に偏りは生まれにくい。時間が余っているからじっくり答えてくれます。同じ金額でも収入を問う調査だと、回答者が税金を恐れて実際より低い値が出たりするので（笑）、外国人相手に消費額をきくのならごまかす必要ありません。この方法を考えた付いた人は大したものです」

よりよい打ち手を見出すにはまず正しいデータから。本川氏でも「難しい」という観光統計作りは、だからこそ挑戦しがいがあるとも言えるのではないだろうか。



### Webサイトや書籍で オールジャンルな 統計データを紹介

本川氏の取り扱うデータは国内外、ジャンル等を問わずあらゆる社会統計に及ぶ。Webサイト『社会実情データ図録』（<http://www2.ttcn.ne.jp/Honkawa/>）では、週に1、2回のペースでさまざまなデータとその分析記事が紹介されている。本文中で紹介した「日本人の疲れにくさ」については、栄養生理学的データから米食との関連も論じられていて興味深い（詳細は『社会実情データ図録』3277参照）。



近著に「統計データが語る 日本人の大きな誤解」（日経プレミアシリーズ）。思い込みと現実のギャップに気付かされる内容だ

